



# 臨終反卷

ニッポン  
ドクター和の

この10月、東京・大井町で尊厳死についての講演会をしました。会場ロビーに「GSフェスティバル」という12月のライブのポスターが貼られています。ジャッキー吉川とブルーコメッツの三原綱木さん、ザ・タイガースの加橋かつみさん、ミッキー吉野さんなどGSの錚々(そうそう)たる顔ぶれにこの人の名を見つめました。ザ・ビークの成田賢さんです。

『サイボーグ009』や『電子戦隊デンジマン』の主題歌など、アニソン界の帝王としての方が広く知られているかもしれません。「キャラメルコーン」のCMソングなどでも、抜群の音量で活躍されました。

12月にライブで歌う予定があったほどお元気だった成田さんですが、11月13日に急死されま

82

## 歌手 成田賢



長尾和宏 (ながお・かずひろ) 医学博士。東京医大卒業後、大阪大第二内科入局。1995年、兵庫県尼崎市で長尾クリニックを開業。外来診療から在宅医療まで「人を診る」総合診療を目指す。近著「薬のやめどき」「痛くない死に方」はいずれもベストセラー。関西国際大学客員教授。

した。享年73。死因は肺炎との報道です。直前までブログを更新し、おしゃれな自撮り写真も掲載していますから、ご本人も予期せぬ死だったことでしょう。11月6日には、「風邪気味なのでもう眠ります」とツイートをしています。

これからの季節、風邪とともに

に肺炎も増えます。肺炎は軽く考えてはいけません。がん、心疾患に続き現在わが国の死因の第3位が肺炎です。年齢が上がるとその死亡率が増えています。一言で肺炎といっても、細菌性肺炎、ウイルス性肺炎、マイコプラズマ肺炎、レジオネラ肺炎等、病原となる微生物によつて様々な病態があります。ちなみに後期高齢者の肺炎は嚥下機能の低下に伴う誤嚥性肺炎が大半を占めます。

咳や痰や発熱や胸の痛みなどの自覚症状は共通です。医師は問診と診察で肺炎を疑えば、レントゲンなどの検査を行います。高齢者は肺炎があつても微熱や食欲低下程度のことがあるので要注意です。

言えませんが、彼は病との闘いの半生でもあったようです。1980年にバイク事故に遭い、翌年に歌手を引退。完治する術のない胸郭出口症候群という神経障害の後遺症とともに生きることに。鍼治療を続け、ようやく2007年に歌手活動を再開しました。「1万回痛いと言っても痛みが取れるわけではない」と、病のつらさを口にはしなかつたそうです。

胸郭出口症候群のため呼吸筋と肺活量が減少だけでなく痰を吐き出す力も弱まったために、肺炎が急性増悪したのではと想像します。加齢による免疫機能低下や慢性疾患などの基礎疾患のある人が肺炎になると、抗菌剤で治療しても比較的短期間に重篤な病態に陥ることがままあります。しかし、一度は諦めかけた歌手の道を、結果的には生涯現役で終わらせることができ

成田さんの肺炎の詳細は明らかではありませんからこれ以上は何とも

# 病のつらさを隠し生涯現役